

31. 睡眠時無呼吸症候群における胃食道逆流の合併の実態

内科学 (神経)

岩波正興, 宮本智之, 宮本雅之, 平田幸一

【目的】閉塞型睡眠時無呼吸症候群 (obstructive sleep apnea syndrome: OSAS) に合併する胃食道逆流 (GERD) の頻度とその要因について検討した。

【対象と方法】2005年4月1日から2007年3月31日までの2年間にいびきや日中の眠気など睡眠に関する主訴で当院を受診し, OSAS 疑いで睡眠ポリグラフ検査 (PSG) を施行した患者のなかで PSG 施行当日に無作為に自己記入形式で Frequency Scale for the Symptoms of GERD (FSSG) 問診票を記入された192例 (男性162例, 女性30例, 平均44.3歳). OSAS の診断は ICSID-2 に従い, OSAS は軽症群 ($5 \leq \text{AHI} < 15$), 中等症群 ($15 \leq \text{AHI} < 30$), 重症群 ($\text{AHI} \geq 30$) に分類した. FSSG のカットオフ値8点以上を FSSG 陽性 GERD と判定した。

【結果】FSSG 陽性 GERD は, 非 OSAS 群 (AHI 5未滿) 15例 (33例中45.5%) に対し, OSAS 軽症群7例 (32例中21.9%), 中等症群11例 (38例中29.0%), 重症群30例 (89例中33.7%) であったが, OSA 重症度との関連はなかった. FSSG の下位項目別にみたとき, 酸逆流関連症状, dyspepsia 症状のいずれにおいても OSA 重症度と関連はなかった. FSSG 陽性 GERD の BMI の中央値は 27.1 kg/m^2 , FSSG 陰性群の BMI の中央値は 26.4 kg/m^2 であった ($P=0.071$). Arousal index では 20/h 以上と 20/h 未滿の例で差はなかった。

【結語】今回の検討では, OSA 重症度は FSSG 陽性 GERD の有病率に関連を認めなかった. GERD の自覚症状の出現には OSAS や肥満などの背景因子よりもむしろ下部食道括約筋の機能が関与している可能性が示唆された。

32. 当院におけるホルミウムレーザー前立腺核出術 (HoLEP) の治療成績

越谷病院 泌尿器科

佐藤 両, 寺井一隆, 芦沢好夫, 八木 宏, 狩野宗英, 新井 学, 岡田 弘

【目的】前立腺肥大症に対する新しい外科的治療として HoLEP を経験したので当科で施行した治療成績を報告する。

【対象と方法】2007年6月より2008年5月までの1年間に前立腺肥大症の診断にて HoLEP を施行した30例について, 手術成績や治療効果を検討した. 手術症例は, 問診, 経直腸的前立腺超音波, Urodynamic study を施行し, 手術は単独術者によって施行した。

【結果】全体の平均年齢は 70.4 ± 5.6 才, 前立腺体積は $69.1 \pm 14.7 \text{ cm}^3$, 切除量は $32.9 \pm 20.5 \text{ g}$, PSA 値は $7.6 \pm 6.5 \text{ ng/ml}$ であった. 平均手術時間は $151.3 \pm 81.2 \text{ min}$ で, 術前後の Hb 値を比較すると平均 $1.4 \pm 1.7 \text{ g/dl}$ の低下であった. 合併症としては, 術後の一時的な腹圧性尿失禁・外尿道狭窄など軽度の症例を経験した. 重篤な合併症としては, 膀胱穿孔と, あわせて同種血輸血を施行した症例と, 術後尿失禁が3ヶ月以上遷延している症例をそれぞれ1例認めたが, 経験症例が15例をこえたあたりから安定した成績が得られていた。

【考察】前立腺肥大症の手術として現在でも TUR-P が標準手術であるが, TUR 症候群や出血という合併症が問題となっている. 今回, 比較的少ない経験で, TUR-P と同等の効果を持ち, 合併症の少ない治療成績を得られた. 前立腺肥大症に対する治療として HoLEP の有用性が示唆された。